

四半期報告書

(第50期第1四半期)

自 平成23年7月1日
至 平成23年9月30日

大日本コンサルタント株式会社

東京都豊島区駒込三丁目23番1号

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

- 1 主要な経営指標等の推移 1
- 2 事業の内容 1

第2 事業の状況

- 1 事業等のリスク 2
- 2 経営上の重要な契約等 2
- 3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

- (1) 株式の総数等 4
- (2) 新株予約権等の状況 4
- (3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 4
- (4) ライツプランの内容 4
- (5) 発行済株式総数、資本金等の推移 4
- (6) 大株主の状況 4
- (7) 議決権の状況 5

2 役員の状況 5

第4 経理の状況 6

1 四半期財務諸表

- (1) 四半期貸借対照表 7
- (2) 四半期損益計算書 9

2 その他 12

第二部 提出会社の保証会社等の情報 13

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年11月11日
【四半期会計期間】	第50期第1四半期（自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日）
【会社名】	大日本コンサルタント株式会社
【英訳名】	NIPPON ENGINEERING CONSULTANTS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 川神 雅秀
【本店の所在の場所】	東京都豊島区駒込三丁目23番1号
【電話番号】	03（5394）7611（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役業務管理担当 藤田 隆
【最寄りの連絡場所】	東京都豊島区駒込三丁目23番1号
【電話番号】	03（5394）7611（代表）
【事務連絡者氏名】	常務取締役業務管理担当 藤田 隆
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第49期 第1四半期 累計期間	第50期 第1四半期 累計期間	第49期
会計期間	自平成22年7月1日 至平成22年9月30日	自平成23年7月1日 至平成23年9月30日	自平成22年7月1日 至平成23年6月30日
売上高 (千円)	423,206	324,426	9,280,680
経常損失(△) (千円)	△764,165	△719,141	△119,978
四半期(当期)純損失(△) (千円)	△533,987	△467,528	△206,391
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	—	—	—
資本金 (千円)	1,399,000	1,399,000	1,399,000
発行済株式総数 (千株)	7,660	7,660	7,660
純資産額 (千円)	3,338,534	3,181,918	3,673,674
総資産額 (千円)	7,567,681	8,108,272	7,437,493
1株当たり四半期(当期)純損失金額(△) (円)	△69.73	△61.05	△26.95
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
1株当たり配当額 (円)	—	—	5.00
自己資本比率 (%)	44.1	39.2	49.4

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成していませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 売上高には消費税及び地方消費税(以下、「消費税等」という。)は含まれていません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、非連結子会社2社を有しておりますが、利益基準及び利益剰余金基準からみて重要性が乏しい子会社であるため記載していません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第49期第1四半期累計期間、第50期第1四半期累計期間及び第49期は1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。

2【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、本年3月に発生した東日本大震災の影響により低下した企業の生産活動が、サプライチェーンの早期復旧により生産活動や設備投資に穏やかな回復の兆しが出始めました。しかし急激な円高、欧州の財政問題や米国の景気低迷など世界的な経済の減速懸念が深刻化しており、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境下において、当社が属する建設コンサルタント業界におきましても、公共事業費の長期的な縮減傾向は続いており、中長期的な国内市場の厳しい受注競争は継続しております。一方、国の第1次・第2次補正予算に続き、第3次補正予算が閣議決定され東日本大震災からの復旧・復興に向けた復興需要と共に、東京湾北部地震、東海・東南海・南海地震等の全国的な巨大地震に備える防災及び減災対策の重要性が高まっております。

当社は、このような市場環境を踏まえ、橋梁や道路といった既存のコア事業分野における計画・設計業務だけでなく、河川氾濫や斜面崩壊、プラントや生産設備の耐震診断といったリスクマネジメント業務の受注強化に努めると共に、縮小する事業量に呼応した内製化促進に向けた施策の強化、外注費の管理強化、労務環境の改善に前事業年度より継続して努めてまいりました。更に、東日本大震災から当社の各事業分野におけるハードとソフトの技術を集結した震災復興支援室を立ち上げ、復興需要及び防災対策における受注強化に努めてまいりました。

以上のような事業経過のもと、当第1四半期累計期間における業績は、受注高は30億5百万円（前年同四半期比125.3%）となりました。売上高は3億2千4百万円（同76.7%）、営業損失は7億1千5百万円（前年同四半期7億6千万円）、経常損失は7億1千9百万円（同7億6千4百万円）となりました。また、株価の下落に伴う投資有価証券評価損を特別損失として2千5百万円計上した結果、四半期純損失は4億6千7百万円（同5億3千3百万円）となりました。

なお、当社は官公庁取引が大半を占める事業の性質上、売上高が第4四半期会計期間に集中する傾向にあり、第3四半期会計期間までは営業費用の占める割合が著しく高くなる傾向にあります。そのため、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに損失計上となっております。

以下に部門別の状況を示すと次のとおりであります。なお、当社は単一の報告セグメントであるため、セグメントごとの記載はしていません。

〔道路・橋梁部門〕

当部門は、受注高が24億2千2百万円（前年同四半期比137.1%）、売上高は1億5千4百万円（同55.2%）となりました。主たる受注業務として、首都圏中央連絡自動車道における桶川第3高架橋橋梁設計検討業務、国土交通省新潟国道事務所管内における栗ノ木道路高架橋詳細設計業務、愛知国道事務所管内における名古屋環状2号線日光川工事用道路橋設計業務などがあげられます。

〔広域整備・調査部門〕

当部門は、受注高が5億4千6百万円（前年同四半期比86.5%）、売上高は6千7百万円（同124.5%）となりました。主たる受注業務として、佐賀県における玄海灘地区の海砂採取による環境影響調査業務、青森県下北地区（白糠漁港）における水産物供給基盤機能保全事業設計業務、千葉県花見川における終末処理場汚泥処理施設再構築基本計画業務などがあげられます。

〔施工管理部門〕

当部門は、受注高が3千7百万円（前年同四半期△0百万円）、売上高は1億2百万円（前年同四半期比115.4%）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期会計期間末における資産合計は、前事業年度末と比べて6億7千万円増加し、81億8百万円となりました。主な変動は、たな卸資産の増加12億5千6百万円、繰延税金資産の増加2億7千9百万円、運転資金ならびに法人税等の支払により現金及び預金の減少5億3千万円等によるものであります。

負債合計は、前事業年度末と比べて11億6千2百万円増加し、49億2千6百万円となりました。主な変動は、未成業務受入金の増加8億1千1百万円、短期借入金の増加6億2千5百万円、業務未払金の減少1億1千6百万円等によるものであります。

純資産合計は、前事業年度末と比べて4億9千1百万円減少し、31億8千1百万円となりました。主な変動は、剰余金の配当3千8百万円、四半期純損失4億6千7百万円を計上したことにより利益剰余金が減少したこと等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期累計期間における研究開発活動の金額は、1千1百万円であります。

なお、当第1四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	24,000,000
計	24,000,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数（株） （平成23年9月30日）	提出日現在発行数（株） （平成23年11月11日）	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	7,660,000	7,660,000	東京証券取引所 市場第二部	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	7,660,000	7,660,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数（株）	発行済株式総数残高（株）	資本金増減額（千円）	資本金残高（千円）	資本準備金増減額（千円）	資本準備金残高（千円）
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	—	7,660,000	—	1,399,000	—	518,460

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成23年6月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 1,500	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 7,653,300	76,533	—
単元未満株式	普通株式 5,200	—	1単元（100株）未満の株式
発行済株式総数	7,660,000	—	—
総株主の議決権	—	76,533	—

(注) 「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が600株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数6個が含まれております。

② 【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
大日本コンサルタント株式会社	東京都豊島区駒込三丁目23番1号	1,500	—	1,500	0.02
計	—	1,500	—	1,500	0.02

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号。以下「四半期財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び当第1四半期累計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

3. 四半期連結財務諸表について

四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	0.7%
売上高基準	9.6%
利益基準	－%
利益剰余金基準	3.0%

※会社間項目の消去前の数値により算出しております。

1 【四半期財務諸表】
 (1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	835,205	304,330
完成業務未収入金	504,207	123,235
たな卸資産	1,043,418	2,299,724
繰延税金資産	167,063	460,079
その他	77,949	107,285
貸倒引当金	△1,013	△248
流動資産合計	2,626,830	3,294,408
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	666,506	658,588
土地	3,096,844	3,096,844
その他（純額）	104,297	114,896
有形固定資産合計	3,867,648	3,870,330
無形固定資産	88,396	93,932
投資その他の資産		
投資有価証券	226,186	226,726
繰延税金資産	314,773	300,786
その他	347,004	353,775
貸倒引当金	△33,345	△31,686
投資その他の資産合計	854,618	849,601
固定資産合計	4,810,663	4,813,864
資産合計	7,437,493	8,108,272

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年6月30日)	当第1四半期会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
業務未払金	369,332	253,177
短期借入金	50,000	675,000
1年内返済予定の長期借入金	114,030	100,000
未払法人税等	45,398	17,687
未成業務受入金	632,969	1,444,851
賞与引当金	—	149,022
受注損失引当金	12,800	64,100
その他	1,002,761	703,064
流動負債合計	2,227,292	3,406,903
固定負債		
長期借入金	700,000	687,500
退職給付引当金	745,277	741,371
資産除去債務	38,500	39,514
その他	52,749	51,064
固定負債合計	1,536,526	1,519,450
負債合計	3,763,819	4,926,353
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,399,000	1,399,000
資本剰余金	1,518,460	1,518,460
利益剰余金	769,840	264,019
自己株式	△439	△439
株主資本合計	3,686,860	3,181,039
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△13,186	878
評価・換算差額等合計	△13,186	878
純資産合計	3,673,674	3,181,918
負債純資産合計	7,437,493	8,108,272

(2) 【四半期損益計算書】
【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
売上高	423,206	324,426
売上原価	424,616	351,077
売上総損失(△)	△1,409	△26,651
販売費及び一般管理費	759,158	688,497
営業損失(△)	△760,568	△715,148
営業外収益		
受取事務手数料	1,379	1,203
受取賃貸料	778	669
その他	912	2,102
営業外収益合計	3,070	3,975
営業外費用		
支払利息	6,012	5,999
為替差損	610	1,460
その他	44	508
営業外費用合計	6,667	7,968
経常損失(△)	△764,165	△719,141
特別利益		
固定資産売却益	281	—
貸倒引当金戻入額	1,013	—
特別利益合計	1,295	—
特別損失		
固定資産除却損	1,236	—
投資有価証券評価損	29,479	25,254
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	30,444	—
特別損失合計	61,159	25,254
税引前四半期純損失(△)	△824,029	△744,395
法人税、住民税及び事業税	12,891	13,589
法人税等調整額	△302,933	△290,456
法人税等合計	△290,041	△276,867
四半期純損失(△)	△533,987	△467,528

【会計方針の変更等】

該当事項はありません。

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

該当事項はありません。

【追加情報】

当第1四半期累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 当第1四半期会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期損益計算書関係)

前第1四半期累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)
※ 当社は官公庁取引が大半を占める事業の性質上、売上高が第4四半期会計期間に集中する傾向があり、第3四半期会計期間まで営業費用の占める割合が著しく高くなる傾向があります。	※ 当社は官公庁取引が大半を占める事業の性質上、売上高が第4四半期会計期間に集中する傾向があり、第3四半期会計期間まで営業費用の占める割合が著しく高くなる傾向があります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 平成22年7月1日 至 平成22年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日)
減価償却費	40,308千円	36,177千円

(株主資本等関係)

I 前第1四半期累計期間(自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年9月17日 定時株主総会	普通株式	45,950千円	6円	平成22年6月30日	平成22年9月21日	利益剰余金

II 当第1四半期累計期間(自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年9月22日 定時株主総会	普通株式	38,292千円	5円	平成23年6月30日	平成23年9月26日	利益剰余金

(金融商品関係)

四半期財務諸表等規則第10条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期財務諸表等規則第10条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期財務諸表等規則第10条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は建設コンサルタント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年9月30日)
(1) 1株当たり四半期純損失金額(△)	△69円73銭	△61円05銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(△)(千円)	△533,987	△467,528
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失金額(△)(千円)	△533,987	△467,528
普通株式の期中平均株式数(千株)	7,658	7,658

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月 8日

大日本コンサルタント株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

結城 秀彦

印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士

上坂 健司

印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている大日本コンサルタント株式会社の平成23年7月1日から平成24年6月30日までの第50期事業年度の第1四半期会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第1四半期累計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、大日本コンサルタント株式会社の平成23年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。